

02 横手幸太郎新学長に聞く
誰もが生き生きと活躍できる千葉大学へ

2024年4月、横手新学長による新体制がスタート。中山前学長が目指した「輝かしい未来を牽引する世界に冠たる千葉大学へ」を引き継ぎ、学生、教職員と共に目指す千葉大学の将来像について語っていただきました。



02

06 千葉大学のキャンパスライフ 2024

千葉大生はどんなキャンパスライフを送っているのか。学部での学びをはじめ、留学体験、課外活動などにアクティブに取り組む2人の千葉大生のキャンパスライフを紹介します。



06

08 千葉大学 OBOG インタビュー

テレビドラマ化もされた人気ミステリー作家でありながら、新たなジャンルにも挑戦し続ける小説家OBが登場！ 近著では、都市伝説×アクション×ホラーと欲張りな設定を取り入れています。



08

10 研究者インタビュー — CHIBADAI NEXTより—

「誰もが尊厳をもって最期まで生きられる社会」の実現に向けて看護の現場へのデジタルトランスフォーメーション(DX)の導入に取り組む雨宮歩講師がインタビューに答えます。
— 千葉大学 大学院看護学研究院 / フロンティア医工学センター 講師 —



10

12 TOPICS / もっと知りたい千葉大学

14 CHIBA TOMO NEWS



[表紙] 横手 幸太郎 (よこて・こうたろう)

第16代千葉大学長



2024年4月より就任する横手新学長に、就任にあたっての思い、これからの千葉大学が目指すべき姿を見据えた人材育成や社会貢献に資する研究推進などに関する構想、医学の道を志したきっかけ、学生や教職員へのメッセージを熱く語っていただきました。学生時代に熱中していた剣道や、健康維持のために始めた筋力トレーニングなどプライベートのお話も交え、新学長の素顔に迫ります。
(撮影:西千葉キャンパス 本部棟)

特集

横手幸太郎新学長に聞く

誰もが生き生きと活躍できる千葉大学へ

千葉大学のキャンパスライフ 2024

千葉大学 OBOGインタビュー

研究者インタビュー — CHIBADAI NEXTより —

横手 幸太郎

今、千葉大学にはどのような役割が求められているのか？
必要とされる人材の育成や社会貢献に資する研究の推進、
経営力の強化や学内の環境整備といった構想について
横手幸太郎新学長にインタビューしました。

学長就任にあたっての思いを お聞かせください

横手 2020年4月から千葉大学医学部附属病院の病院長と千葉大学副学長を兼任してきましたが、2023年11月に病気で逝去された中山俊憲前学長から引き継ぐかたちで、2024年4月、学長に就任しました。そのため、中山前学長が取り組まれた「輝かしい未来を牽引する世界に冠たる千葉大学へ」という目標を実現していく責任を感じますし、そうした中で私自身の独自性も打ち出しながら、千葉大学を発展させていければと考えています。

どのようなビジョンで 大学運営をしていこうとお考えですか

横手 まずはこれまで千葉大学が取り組んできたことをどうすれば最大化できるかを考えていきます。大学の本分は、教育、研究、社会貢献の3つですが、加えてこれからの大学は、経営基盤と学内の環境整備についても取り組む必要があると感じています。組織や環境が良くなれば、学生も教職員も自分らしさを発揮でき、教

育や研究が進みますし、それが社会貢献にもつながります。誰もが活躍できるような循環の仕組みをつくり、社会から信頼され、親しまれ、誇りとされる大学としていくことが私のビジョンであり使命と考えます。

まずは、教育について取り組みたいことや 構想などを教えてください

横手 教育については、千葉大学は「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、最高学府にふさわしい優れた学問を学修する中で、高い知性と豊かな人間性を育み、グローバル社会で活躍できるリーダーの育成を目指しています。今年度からはデータサイエンス時代に対応した人材を育成するため、情報・データサイエンス学部と学府を新設しました。ビッグデータやAIをどう活用するかは、文系理系を超えて社会で活躍していく必要条件になっていくので、領域横断的にデータを扱える人材を育成するのは、新たな価値創出のためにも意義があると考えています。

日本の人口が減少し、世界の国境の壁も低くなる中、グローバル化はますます重要になります。グローバル人材の育成を掲げる千葉

特集

誰もが生き生きと活躍できる千葉大学へ

新学長に聞く

大学にとっては、全員留学は強みの一つです。一方、留学はあくまで手段であって、目的は異文化体験を通じて自分を豊かにすることです。実際に海外に行くことはとても重要ですし、また、コロナ禍により物理的な海外渡航ができなくなったことで発展したオンラインの活用には時間やコストの面で利点もあります。両者を融合し、学生の皆さんが無理なく学習目的を達成できるような、柔軟で多様な方法を検討していきたいと思っています。

研究についてはいかがでしょうか。 新しいトピックがあればご紹介ください

横手 千葉大学は昨年、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」で、全国12大学の一つに採択されました。本学が強みを持つ研究を最大限に活かすとともに、幅広い研究分野を伸ばしていきたいと思っています。一例として、千葉大学は、世界の免疫学に大きな影響を与えた多田富雄先生以来、連続と続く国内有数の免疫学のメッカであり、医学部附属病院もコロナ禍のワクチン研

究で存在感が高まりました。各学部の先進的な研究を進めるとともに、外部へ向けた発信もこれまで以上に強化していきたいと考えています。

さらに、千葉大学は総合大学であることが大きな強みです。先ほど触れた情報・データサイエンス研究を発展させるとともに、学部間の連携を活性化し、領域を超えた新しい研究が展開されることを期待します。

こうした教育や研究が社会貢献に 活かされるわけですね

横手 はい、大学は人と知を育む場所です。現代は閉塞感がある時代ですし、日本は国土が狭く資源も少ないからこそ、前例にとらわれず自らの判断で道を切り開いていけるたくましい人材、そして社会課題を解決するような研究の成果が重要になってきます。教育や研究で生み出した成果や強みを社会貢献に活かしていければと思います。

大学法人化以降、大学も経営に向き合う必要が出てきました。経営基盤の強化に向けてはどのようなことに取り組まれますか

横手 私は2020年から4年間、医学部附属病院の病院長を務め、国立大学病院長会議や全国医学部長病院長会議の会長としても人的ネットワークを築いてきました。国や自治体との交渉経験もあり、学長として先頭に立って積極的に対外活動も展開していきたいと考えます。

また、千葉大学はこれまでも、研究シーズを企業とともにビジネスイノベーションへとつなげるための「学術研究・イノベーション推進機構(IMO)」を創設するなど、財政資源確保のための手を打ってきました。今後も、寄付を含めた外部資金の獲得に力を注いでいきたいと思っています。

運営基盤の強化という部分ではもう一点、風通しの良い組織づくりも重視しています。学長や理事が決めたことを一方的に上意下達するのではなく、決断の理由や背景をわかりやすく伝えたり、各学部や部署の声が大学本部に届くような双方向のコミュニケーションを実現したりすることで、透明性が担保された組織にしていければと考えています。

学内の環境整備についてはいかがでしょう

横手 今回、学長就任にあたり、各学部を回って、そこで感じたのは、千葉大学が多様性に富んだ人材の宝庫だということです。人は画一的ではないので、挑戦したいことも人それぞれです。学生および教職員が専門性や個性を発揮し、しっかりと評価される環境を築いていく責任をひしひしと感じました。先ほど触れた双方向のコミュニケーションに加え、DXや様々な支援制度などを通して誰もが



活躍できるような大学環境を整備し、これまで以上に魅力とやりがいのある大学にしていきたいと考えています。

千葉大学医学部のご出身ですが、なぜ医学を志し、その中でも千葉大学を選ばれたのでしょうか

横手 中学3年の理科の教科書で、イギリスの生物学者 ジョン・ガードン博士の研究を知り、生命現象の不思議さに興味を抱きました。ガードン博士は核移植による細胞の初期化を示し、のちにノーベル生理学・医学賞を山中伸弥さんと共同受賞された先生です。大

学に進む際、生命現象の理解を通じて人の命を救う役に立てる医学を学びたいと思って医学部への進学を決めました。

千葉大学を選んだ理由は、私が千葉に居住していたことに加え、臨床も強く有名な研究者や医師を輩出している伝統があったからです。私はもともと文系で英語が最も得意だったのですが、当時の千葉大学は受験科目に英語がありませんでした。受験だけを考えれば不利なので敬遠するところですが、医学を修める上で英語は不可欠と聞いていたため、入学してしまえばむしろ英語が頼もしい武器になると考え、あえて挑戦したのを覚えています。

キャリアのほとんどを千葉大学で過ごされてきましたが、学長就任で意識の変化はありますか

横手 関わる人すべてが自分らしさを追求し、ハッピーになれる環境をつくりたいという基本の部分は変わりません。中心になるのは言うまでもなく学生ですが、教職員も含めたステークホルダーすべてが、ハード面や環境など物理的な豊かさとともに、前向きな気持ちで活動できる「ところ」の豊かさを目指したいと思います。中山前学長が掲げられた「世界に冠たる千葉大学」は、その総体として実現するものと考えています。

最後に、学生や教職員へのメッセージをお願いします

横手 教育、研究、社会貢献という従来からの方針に加え、私が運営強化と学内の環境整備を重視しているのは、学生や教職員が自分らしさを発揮して挑戦できる場にしていきたいからです。千葉大学では総合大学としての多様な授業科目と自主的な学修環境を提供しています。学生には、それらを積極的に活用し、限界を設定せず進むべき道を探して欲しいと思いますし、教職員には学生が充実した人生を送るためのサポートをお願いしたいと考えています。力を合わせて、誰もが活躍できる素晴らしい環境を築いていきましょう。



横手 幸太郎 (よこて・こうたろう) 1963年4月28日生

経歴

- 1988年 3月 千葉大学医学部卒業
- 1992年 8月 ルードウィック癌研究所ウプサラ支部 客員研究員
- 1996年 2月 スウェーデン国立ウプサラ大学大学院博士課程修了
- 1997年 4月 日本学術振興会特別研究員
- 1998年 3月 千葉大学大学院医学研究科博士課程修了
- 1999年 4月 千葉大学医学部 助手
- 2006年 4月 千葉大学医学部附属病院 講師
- 2009年 5月 千葉大学大学院医学研究院 教授
- 2020年 4月 千葉大学医学部附属病院 病院長(2024年3月まで)
- 4月 千葉大学 副学長(病院担当)(2024年3月まで)
- 2021年 3月 慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了
- 2024年 4月 千葉大学長

学位

- Doctor of Medical Science / PhD (1996年2月 スウェーデン国立ウプサラ大学)
- 医学博士(1998年3月 千葉大学)
- 経営学修士 / MBA (2021年3月 慶應義塾大学)

研究分野

ライフサイエンス / 代謝、内分泌学、老化

学会活動

日本内科学会、日本肥満学会、日本内分泌学会、日本老年医学会、日本動脈硬化学会、日本糖尿病学会、日本糖尿病合併症学会、日本肥満症治療学会、日本臨床栄養学会、日本臨床分子医学会など

座右の銘

「我、事において後悔をせず」

宮本武蔵が最晩年に書き残した自省の文「独行道」の一節です。何かに挑戦しようとするとき、人は必ず迷うものですが、それでも一歩を踏み出すには、後悔はしないという思いで決断し実行することが重要だと思います。この言葉を知ったのは中学生の頃で、以来、ずっと大切にしている言葉ですが、年齢を重ねるにしたがって私の捉え方が少しずつ変化しています。若い頃は無謀な挑戦をして失敗することもありましたが、現在の責任ある立場では失敗が許されないので、後悔しなくてすむよう、行動の前の決断に重きを置くようになりました。



左から2番目が横手学長。右から2番目が同級生で小説家の海堂尊氏

中学時代から剣道に熱中。大学時代は医学部の剣道部に所属し、日々練習に打ち込んだ。千葉大学在学中は、関東医師業獣剣道大会の新人戦で優勝、東日本医科学学生剣道大会の団体戦で準優勝した。スウェーデン留学時には現地の人々に剣道を教えたことも。大学時代の剣道部の仲間とは今でも交流が続いている。

プライベートのリフレッシュ法は、家族との会話と筋力トレーニング。仕事人間なので、休みの日には家族と顔を合わせ、他愛もない話をする時間を大切にしている。2009年に教授になって以降は、忙しくて竹刀を握る時間がなかなか持たなくなったが、コロナ禍を契機にジム通いを始め、毎週みっちり汗を流している。



**教職員の全力サポートが受けられ
学際性がある学びができる**

小学生の頃から「困っている人を助けたい」と考えていました。中高生のとき、国際関係学や国際協力を知り、自分が目指したい方向性が見えてきました。そんなとき、千葉大学の学生団体FELicetoと普遍教育科目「グローバルボランティア」について書かれた新聞記事を読み、千葉大学への進学を決めました。

国際教養学部を選んだのは、学際性をもって科目横断的に学ぶことができるから。1、2年では、グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学の3つの分野を中

心に学びました。3年では、クロスメジャープロジェクト(1・II)の授業において、外国につながる子ども・文化・制度を軸に勉強を進め、テーマに対する問題意識や理解、フィールドワークの経験などを獲得できました。学部では「学びたい!」という気持ちに対して、教職員の方々が全力でサポートしてくださるので、様々なことに挑戦する意欲を持ってました。

**難民問題に取り組む仲間たちとの
出会いが私のモチベーションに**

現在は、移民や難民を支援する団体同士のつながりとその課題について研究しています。このテーマは、学生団体FELiceto

での活動に触発されたもの。同団体ではグローバルボランティアの授業と連携した「難民映画祭」の開催や、エスニックコミュニティへの訪問などを行っています。映画祭では自分たちが抱える問題意識を多くの方に共有してもらうためにはどうしたらよいか何度も熟考を重ね苦労しましたが、開催当日に真剣に映画を鑑賞して下さる来場者を見て、悩んだ甲斐があったと思いました。

小学生の頃に決意したことを大学に入って実行に移せ、同じ思いを持つ人たちとの出会いが私の原動力となりました。今後は、この思いをより大きな組織や社会に還元していきたいと考えています。

**学生団体の活動や学部での
学びを通し難民問題を知り、
私の研究テーマとなりました**

岡本 久平 (おかもと・きゆうへい) さん
国際教養学部 国際教養学科 3年
佼成学園高等学校 出身

キャンパスライフ
問 答

Q. 大学内で
お気に入りの場所は?

English House A.

Q. 最近ハマっていることは?

コーヒーを豆から
挽いて淹れること A.

Q. 自習はどこですか?

IMO棟のBiZCAFE A.

私の1コマ

2022年の冬に開催した難民映画祭での1枚。この映画祭の活動に憧れて千葉大学への入学を決めたので、念願を果たした瞬間でした。

特集

千葉大学の

**Campus
Life 2024**

**自由な校風と総合大学に魅力を感じ、
千葉大学で医師を目指す**

進学先を千葉大学に決めた理由は3つ。ゆったりとした自由な校風で勉強に励めること、千葉県という自然が豊かな場所にあること、歴史ある総合大学で他学部との交流が図れることでした。そして、幼い頃から人の役に立つ職業に憧れがあり、その中でも特に医師は直接的に人を治すことができるという点でとてもやりがいのある職業だと感じ、医学部に進学しました。また、学部での教育を卒業後の職業に直接的に活かすことができる医学部の特性にも魅力を感じました。

2年生までは、病気の形態や治療法など基礎医学を主に学びましたが、3年生からは附属病院内にある施設で心電図のとり方や血圧の測定などの実習も受けています。臨床的な内容が増え、医師に近付いている実感があり、うれしく感じています。

**消極的だった私を「全員留学」が
後押ししてくれた**

入学して良かったと思うことは、千葉大学が実施している全員留学です。私は、新しい環境に飛び込むことに消極的で「留学などもってのほか」という感じでしたが、1年生で受講した科目「留学学」で留学に必要な知識や考え方を学び、留学経験のあ

る友達の体験談を聞いて、3年夏の留学プログラムに応募することにしました。ただ、応募後も自分の拙い英語が通じるか、食事が合うかなどの不安がありました。大学側の説明会や教職員のサポートもあり安心して出発できました。

留学先はアメリカのデラウェア大学です。約3週間でしたが、一緒に留学した千葉大生はもちろん、現地の学生や中国、韓国、サウジアラビア、チリからの留学生など世界各国の人と友達になれました。

留学を経験したことで、英語はコミュニケーションツールであることを実感し、多くの人と交流を持てたことで自分の世界が広がりました。

**アメリカでの留学経験で
世界各国の友人を得られ、
自分の世界が広がりました**

平山 史 (ひらやま・ふみ) さん
医学部 医学科 3年
桜蔭高等学校 出身

キャンパスライフ
問 答

Q. 最近ハマっていることは?

料理教室 A.

Q. アルバイトは?

家庭教師を週3回 A.

Q. ランチは?

医学部棟内のコンビニや、
キッチンカー A.

千葉大生は、どんなキャンパスライフを送っているのでしょうか。2人の千葉大生が授業や課外活動について、等身大の声を聞かせてくれました。

私の1コマ

留学中、ニューヨークのブルックリン橋で撮った写真です。みんな初対面でしたが、すぐに仲良くなることができました。写っているのは、千葉大学の学生と福岡から来た学生と現地の日本人です。

ショートショートを手本に 小説の基礎を身に付ける

——読書遍歴や影響を受けた作家を教えてください。

似鳥 本を読み始めたのは小学生の頃からで、特に好きだったのは、友人に勧められたデュマの『三銃士』シリーズや宗田理さんの『ぼくら』シリーズなどです。その後、中学、高校と進む中で、赤川次郎さんや星新一さん、北杜夫さん、筒井康隆さんなどを読むようになりました。中学生になった頃から自分でも物語を書き始めたのですが、そのときに良いお手本になったのが星新一さんのショートショート(超短編小説)です。いきなり長編を書こうとすると挫折しがちですが、ショートショートは短い

のでアマチュアでも完結させることができますし、しっかりした設定や納得感のあるオチといった、ミステリーに必要な作法もこの時期に身に付きました。また、私の文体は改行と読点が少ないのが特徴ですが、これは筒井康隆さんの影響です。——デビューが決まるまでの経緯を教えてください。

似鳥 高校までは小説家になろうという気持ちはなく、教員か弁護士になりたいと思っていました。初めて仕事として小説家を意識したのは、千葉大学教育学部在学中のことです。当時、私が所属していた音楽サークル内で、推理ゲームの『かまいたちの夜』が流行っていたのですが、メンバーを登場人物にしたミステリー小説を競作してみようという話になり、私も参加しました。

ショートショートの経験しかありませんでしたが、きちんとオチをつけることを意識しながら、人物描写や状況設定、トリックの仕掛けや最後の種明かしなどを肉付けていったら、自然と長い小説を書くことができました。特に自信になったのは、サークルの仲間たちが「続編が読みたい」と言ってくれたことで、小説を書き続ける原動力になりました。その後、司法試験に挑戦するために北海道大学法科大学院に進みましたが、少ない時間をやりくりしながらミステリーの公募にも励み、『理由あつて冬に出る』が第16回鮎川哲也賞に佳作入選することができて、小説家デビューへとつながりました。結果的に弁護士にはなりませんでしたが、法科大学院での勉強はミステリー小説を書く上で法的な正確さを担保するのに役

立っています。

こだわりは最後まで読者を 飽きさせずに読ませること

——ご自身の創作スタイルについて教えてください。

似鳥 こだわっているのは、どうやったら読者に喜んでいただけるかという点です。題材を考える際には、どんなテーマなら新鮮味があるかを検討しますし、ミステリーは結末の前に捜査や聞き込みといった退屈になりかねないシーンがありますが、そんなときにも飽きずに読ませるためにどうするかを工夫します。例えば、ボケ役の人物を登場させ、主人公にツッコミの役割をさせることでコントのような会話にするのもそうした工夫の一つです。また、私の

人気ミステリー作家として数々のシリーズ作品を世に送り出しながら
新たなジャンルへの挑戦も続ける似鳥鶏さん。
小説家を目指したきっかけや創作のこだわり、
千葉大生に向けたメッセージなどを語っていただきました。



読み手を喜ばせたいと思う原点は千葉大学の サークル仲間から言われた「続きが読みたい」という言葉

小説家

似鳥 鶏 さん

似鳥 鶏 (にたどり・けい)
小説家。千葉大学教育学部卒業。2006年、北海道大学法科大学院在学中に『理由あつて冬に出る』で第16回鮎川哲也賞に佳作入選し、翌年に小説家デビュー。ミステリー作品を中心に人気作多数。2014年に『戦力外捜査官』、2023年に『育休刑事』がドラマ化。近著でのオススメは『唐木田探偵社の物理的対応』。

本はコミックのような装丁になっているものが多いのですが、これはより多くの人に本格ミステリーを楽しんでいただけるよう、親しみやすい表紙で間口を広げる意図があります。

——作品のドラマ化や賞の選考委員など活動の幅が広がっていますね。

似鳥 ありがたいことに、『戦力外捜査官』と『育休刑事』がドラマ化されました。私は文章でしか表現できないので、実際の映像や配役を見て「こんなイメージで見ていただいているのか」という新鮮な気持ちがありました。また、ドラマがきっかけで小説を知っていただけるケースもあるので、とてもありがたいと思っています。選考委員は、集英社のノベル大賞で2022年から務めています。私にとっても刺激になりますし、少しでも応募者のためになればと思

て、なるべく長く丁寧な選評を書くように心掛けています。

焼き直しにならないよう 常に新しいジャンルに挑戦

——今後、書きたい作品の構想はありますか。

似鳥 ミステリーばかりを書いていると、どうしてもネタが枯渇してきて、過去の作品の焼き直しになってしまいがちです。それを防ぐために、ジャンルを問わず様々な作品を書いていきたいですね。最新作の『唐木田探偵社の物理的対応』はアクションですし、今後は、SFにも挑戦したいと思っています。また、小説ではありませんが、ゲームの原作にも興味があります。協力型桌上ミステリーゲームの原作を担当したことがあるのですが、チームで意見を出し合いな

がら作り上げていく作業は、1人で執筆する小説とは違う新鮮さがありました。機会があればまた挑戦してみたいと思います。

——最後に、学生へのメッセージをお願いします。

似鳥 好きなことに夢中になって時間を使えることが学生の特権なので、やりたいことを何でもやってみてください。経験したことは必ず自分の引き出しになります。それから、千葉大学のOBとして声を大にして言いたいのが、西千葉キャンパスの素晴らしさです。広くてきれいですし、入学時にはここで学べることをうれしく感じました。私は千葉生まれで地元へ愛着があり、小説でも特定の場所を設定していないものは千葉をイメージしているので、私の作品を読む機会があったら、ぜひそのあたりも注目してみてください。



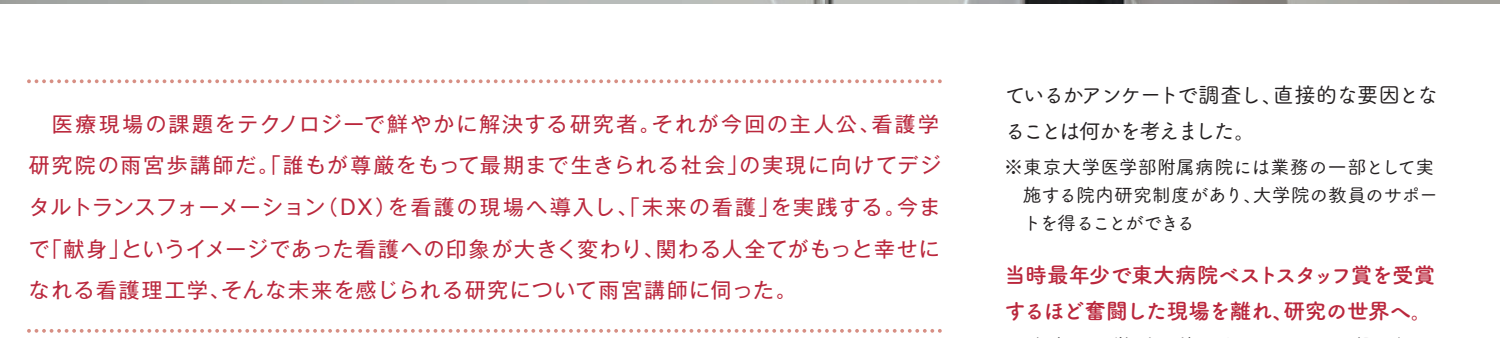
都市伝説が実体を持った“新種の怪異”。怪異に立ち向かう方法はたったひとつ——物理攻撃だった。都市伝説×アクション×ホラー！

人生の最期まで「今が一番幸せ」と思える社会に ～テクノロジーが拓く未来の看護

千葉大学 大学院看護学研究院 / フロンティア医工学センター 講師

雨宮 歩

高齢者が最期まで尊厳を守られ、「今が一番幸せ」だと思える社会を実現するために、自身の臨床経験をもとに看護学と理工学を融合した研究をしています。「今まで通り」や「当たり前」を改めて考え直し、これまでにない発想のケア機器を開発しています。



医療現場の課題をテクノロジーで鮮やかに解決する研究者。それが今回の主人公、看護学研究院の雨宮歩講師だ。「誰もが尊厳をもって最期まで生きられる社会」の実現に向けてデジタルトランスフォーメーション(DX)を看護の現場へ導入し、「未来の看護」を実践する。今まで「献身」というイメージであった看護への印象が大きく変わり、関わる人全てがもっと幸せになれる看護工学、そんな未来を感じられる研究について雨宮講師に伺った。

ボランティアで看護の奥深さに触れる

きっかけは、高校2年生で参加したボランティア。そこで看護観の原点となる言葉と出会う。

就職氷河期の影響で、景気に左右されず求人のある専門職、特に医療関係に興味を持ち看護ボランティアに参加しました。私の担当は着替への介助。とにかく服を換えたらよいのだと全て自分で行っていた私に、看護師が「ひとりでお着替えが難しい患者さんですか?」と声をかけてきたのです。「患者さんの持っている力を見極めて、最大限に活かすのが看護の基本ですよ」と。日常動作であっても患者の機能を引き出すのが看護であると思った私はその奥深さに感銘を受け、看護学部へ進学しました。

根拠を明確に示すことのできる数値から新しい可能性をひらく。

研究の楽しさに気づいたのは、学部の卒業研究のときでした。自身の留学経験から「来日留学生とストレスの関係」をテーマとしましたが、今思えばこの頃から実体験を元にしたデータ解析という研究手法を選んでいったような気がします。

看護学の研究では、被験者の気持ち(主観)を評価することが多いのですが、もともと数字

が好きで、客観的なデータとして示したいと考えた私は、数値で回答するアンケートを作成しました。得られた数値を解析すると、ホームシックは他に比べて強いストレスであることなどが統計的に明らかになったのです。好きな数学が看護と結びつき、新しい可能性がひらけた瞬間でした。

糖尿病患者のQOLに大きく寄与するフットケアを追究

大学院への進学を希望するが、まずは臨床経験を勧められ東京大学医学部附属病院に就職。様々な合併症を引き起こす糖尿病に興味を持った。

糖尿病は多くの合併症を引き起こしますが、きちんとケアをすると防げる合併症がたくさんあり、看護からできるアプローチがいろいろ考えられます。特に糖尿病患者さんに多く発症する足潰瘍は、一度できると治りにくく再発しやすい非常にやっかいな合併症で、気づかないうちに重症化して下肢切断に至るケースも少なくありません。そのために重要な対策は潰瘍発症予防であり、看護師によるフットケアが大きな役割を担っています。そこで業務と並行しながらフットケアと潰瘍予防について研究を開始しました*。まず看護師がフットケアに対してどのような認識を持っ

ているかアンケートで調査し、直接的な要因となることは何かを考えました。

※東京大学医学部附属病院には業務の一部として実施する院内研究制度があり、大学院の教員のサポートを得ることができる

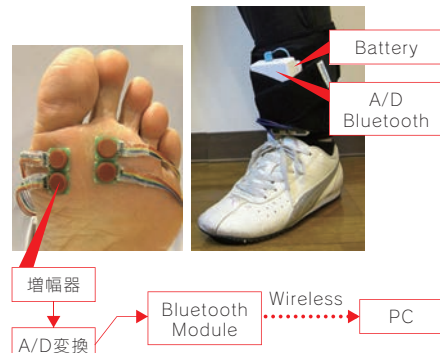
当時最年少で東大病院ベストスタッフ賞を受賞するほど奮闘した現場を離れ、研究の世界へ。

臨床での学びが積み上がるにつれ、得た知見を元に現場での課題を解決したいと研究への意欲が高まりました。タイミング良く院内研究を指導していただいた先生の研究室に、社会人7年目で大学院進学を果たすことができました。研究室には看護だけでなく工学、理学の先生方も在籍されていて、看護の視点から理工学や「ものづくり」を学べる恵まれた環境だったので、実学的な研究が盛んで、「現場で本当に使える研究がしたい」と考えていた私には最適な研究室でした。

歩行センサーで患者の足を科学的に分析

大学院では潰瘍の前段階である胼胝(たこ)の形成要因についてさらに研究を深め、歩行の国際トップジャーナルに掲載される。

糖尿病の方の足裏に胼胝ができると潰瘍になる確率は10倍以上も高まります。胼胝や潰瘍の発生要因は歩行中に足にかかる「圧力」と「ズレ」(前後左右の動き)と言われており、圧力は計測されていましたが、ズレは実際にはほとんど計測されていませんでした。そこで圧力とズレの同時測定を試みました。ズレを足の部位ごとに靴中で測定できる薄型センサーはほとんどなく、計測システムの開発から始めなければならませんでした。



測定専用靴ではなく、患者さん自身の靴を履いた普段の状態でも潰瘍ができやすい部分の圧力とズレを計測できるシステムを開発

時間とコストも限られた中で結果を出すために、市販のセンサーを組み合わせる方法を選びました。自作計測システムを糖尿病患者さんにつけてもらい、歩行時の足にかかる力を測定して解析したところ、胼胝ができやすい靴や歩き方の条件を導き出せたのです。胼胝ができる部位によって原因が異なる点も興味深い発見でした。

例えば、膝を曲げる角度が小さいと脚で蹴り出す動作が小さくなってしまい、足の親指の付け根あたりに大きな圧力とズレがかかり胼胝ができやすくなるということが明らかになりました。そのため、蹴り出しやすように船底型のソールを持つ靴が潰瘍予防を望む方に適していると提案しました。

患者と医療者双方の尊厳を守るセンサー技術

博士号の取得後、千葉大学の助教に。看護現場の大きな負担原因である「自己抜去」を防止するセンサー開発へと乗り出す。そこにも自身の経験があった。

入院した祖母のお見舞いに行くと、身体拘束をされていました。まだ認知症と診断されていなかったのですが、点滴を抜いてしまうかもしれないからという理由で……。勤務していた大病院では、最後の手段として最低限の時間のみ身体拘束をしていたので、この状況で身体拘束することに驚きました。スタッフを配置できる人数に限られ、看護師以外の方が主に患者ケアを担っている市中病院では、点滴チューブを抜去してもすぐに処置ができないことも多いのです。そのため、身体拘束は「仕方がないもの」として認識されがちです。一方で、身体拘束によって認知症がさらに進行し、より多くの介護を要する悪循環も報告されています。スタッフも自分の仕事に誇りや自信が持てなくなり、仕事へのやりがいは低下します。身体拘束は、される側はもちろん、する側の尊厳も傷つけるのです。

このような現状を見て、どうにか拘束を減らせないかと問題意識が芽生えました。その結果、身体拘束における理由の7割以上を占める点滴の自己抜去に注目し、点滴の針が刺さっている周囲に手が触れると感知する、薄いシート型センサーシステムを開発しました。異物感や

皮膚障害を起こしにくい点にも配慮した、包帯の上から貼れるセンサーです。2024年3月より臨床試験を開始し、効果を実証されれば企業と連携して実用化される予定です。

介護の未来を変える「ポイントオブケアAI」

身体拘束や見守り巡回で疲弊していた現場と患者を、シンプルなセンサーが救う。これこそまさに看護現場でのDXだ。しかし、祖母の看護で心残りだったことがもう一つあるという。

祖母はずっと「家に帰りたい」と言っていました。認知症を持つ祖母が一人で暮らすのは難しく、施設に入所せざるをえませんでした。もっと早くに認知機能低下を見つけて対応ができていれば、と、今でもそのことが小さなツグのように心に残っています。認知症は軽度認知障害(MCI)と呼ばれる早期に発見し、適切に介入すれば進行スピードを抑えられることが明らかになってきました。それが可能なら、施設や病院ではなく自宅で過ごせる方が増えるかもしれません。

スマートフォンとウェアラブル端末をMCIの検出に使えるか——大型プロジェクト「ポイントオブケアAI」の幕開けだ。

認知症の傾向を早期発見できる生体センシングとシステム開発「ポイントオブケアAI」の研究をスタートしました。日常生活で得られるデータを市販のスマートウォッチとアプリで収集して生活の中で認知機能の低下を検出し、予防行動を促す仕組みです。

この研究は、認知機能低下リスクだけでなく、介護する側の疲労データも同時に取得する点がユニークです。認知症患者自身はまだ自宅に居られる状態なのに、介護者が限界で施設に入らざるを得ないケースも多いのです。まずは健康者で狙ったデータが取得できるか検証を進めています。介護は世界の共通課題です。このシステムが普及して、認知症予備軍だけでなく介護を担う方のサポート環境も整えられたら、

介護する人もされる人も、今よりもっと幸せな日常を送れるのではないのでしょうか。私が研究を通して目指すのは、人生の最期まで「今が一番幸せ」と感じられる社会です。

看護×ものづくりで拓く未来の看護

「新しい看護」を開拓する姿勢が高く評価され、2023年度千葉大学先進学術賞を受賞。「アイデアはまだある」と彼女は破顔する。

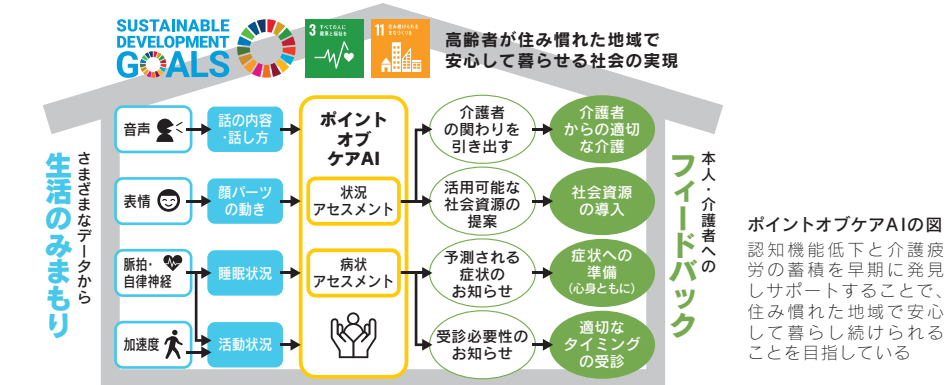
認知症における徘徊をバーチャルの世界で解決できないかな、と思っています。認知症以外にも、外に出ることが身体的・精神的に難しい方も含めて、みんなが落ち着ける環境をデジタル空間に作ってみたいです。

看護学だけでは解決できない問題であっても、他の分野と協働することで新しいソリューションが生まれる看護理工学はまさにこれからの分野です。学生の方には、楽しい、やりたいと思うことをどんどん探して、突き進んでほしいです。始めるハードルをできるだけ低くして、とにかく一歩を踏み出してほしい。想像以上の学びが得られますし、アイデア次第で医療が大きく変わるかもしれません。「こんな社会にしたい」を「看護×ものづくり」で実現してみませんか。



学生へのメッセージ

「楽しい」「やりたい」と思うことを探して、それが見つかったら突き進んでください。何かを始めるにはハードルがあることが多いですが、失敗を恐れすぎず、何事もまずは小さな一歩から踏み出してほしいと思います。



千葉大学と社会をつなぐ、研究の魅力発信オウンドメディア

CHIBADAI NEXT

はこちらから ▶

日本語版 英語版

千葉大学の様々な情報について、一般の方にもわかりやすく、身近に感じていただけるような記事を発信しています。

EVENT

千葉大学創立75周年・プレ記念行事を開催

千葉大学は、約150年前に設立された千葉師範学校や共立病院などを前身として、1949年に新制国立大学として発足しました。2024年に迎える創立75周年に先立ち、2023年11月3日に「輝かしい未来を牽引する世界に冠たる千葉大学へ」をテーマに創立75周年・プレ記念行事を開催しました。当日は、本学教員による講演や、本学医学部出身の医師・小説家である海堂尊氏による特別講演が行われ、約200名の方にご来場いただきました。



講演を行う海堂尊氏

INFORMATION

キャンパスで採れたはちみつが千葉市の食のブランドに認定

千葉大学では都市養蜂研究の副産物として得られたはちみつを商品化しています。このたび、西千葉キャンパスで採取された「千葉大学西千葉はちみつ」が、千葉市食のブランド「千」第4回認定品の一つに選ばれ、2024年2月17日に千葉市内で認定証授与式が行われました。同商品は大学公式オンラインショップなどで販売中のほか、千葉市のふるさと納税返礼品としても提供される予定です。



千葉大学西千葉はちみつ

EVENT

プロ野球選手が附属病院小児科病棟を訪問

2023年12月19日に千葉ロッテマリーンズの種市篤暉投手、田中晴也投手が、球団の社会貢献プロジェクト「MARINES LINKS」の一環で、医学部附属病院小児科病棟を訪問しました。選手の訪問に、子どもたちは大喜び。最初は緊張していた子どもたちも、選手と一緒に準備体操やキャッチボールをするうちに打ち解けることができ、にぎやかで楽しいひとときを過ごしました。



子どもへキャップをプレゼントする種市投手(写真中央)、田中投手(写真右)

もっと知りたい千葉大学

千葉県立園芸専門学校 一期生の卒論テーマ

園芸学部の前身である千葉県立園芸専門学校は、1912年に最初の卒業生21名を送り出します。一期生の卒論テーマは果樹10名、造園4名、花卉2名、蔬菜、育種、貯蔵、果実酒、園芸業各1名でした。造園が人気だったのは、鏡保之助校長(初代)が自ら考案した「庭園論」を帝国大学などに先んじて講じたためと言われています。一方、ドラマで脚光を浴びた植物学者・牧野富太郎が1911年から約3年間「植物分類学」講師をしていたことにも注目されます。(大学院国際学術研究院 見城悌治)



初代校長 鏡保之助氏

AWARD

数学を応用した「千葉大ビール」が国際ビール審査会で銀賞を受賞

大学院理学研究院の萩原学教授をはじめとした本学の学生・教職員有志が行っている「千葉大ビールプロジェクト」で制作したクラフトビール「風の通り道」が、インターナショナル・ビアカップ2023の緑茶ビール部門で銀賞を受賞しました。第4作目である本商品は、数学を活用してレシピを開発し、試作を重ね、約半年かけて完成しました。萩原教授は、「今後は学内に独自の醸造施設を設立して、新たなビールづくりに挑戦し、学生へ学びの機会を提供し続けたい」と思いを語りました。



クラフトビール「風の通り道」

AWARD

法政経学部生が「WEST論文研究会発表会」で最優秀論文賞・優秀論文賞を受賞

経済学の観点から社会課題解決に向けた政策提言を行う論文が評価対象となる2023年度「WEST論文研究会発表会」*において、法政経学部後藤剛志講師のゼミの2グループがそれぞれ最優秀論文賞と優秀論文賞を受賞しました。出場した学生は学術的にも政策的にも高いレベルの研究を行い、70本を超える論文の中から、上位5本が優秀論文に選出され、その中から後藤ゼミの1グループが最優秀論文賞に輝きました。*有志学生団体が主催し、大阪府などが後援。



後藤剛志講師とゼミ生の皆さん

OBOG MESSAGE

地域の「困った」を「ありがとう」に変える株式会社ドットライン 石井 花織さん

ドットラインに入社したきっかけ

バックオフィスの仕事に挑戦したいと思い何社か受けた中で面接の対応してくれた方の雰囲気もよく、1番楽しそうだなと感じたのがドットラインでした。千葉出身者も多く、同じ出身校で長く続けている方が多いという話を聞き、自分らしく、長く続けられそうだと感じ入社を決めました。

現在の仕事について

1,200名以上在籍している当社の社員一人一人の人事評価に関わる仕事をしています。当社は様々な医療・福祉の事業を展開しているため、各事業部ごとに評価をする項目も異なります。ルールに則った評価が行われているかどうかの確認や昇格に関する試験の対応など、評価をする上長と評価を受ける部下(社員)との歯車的な役割を担っています。在学中は法学にも触れていたため、現在の仕事で就業規則などの制度に関わることがあっても抵抗なく仕事に取り組むことができている。

人事評価の仕組み作りやルールを改善し続けるなかで、結果を残している人がきちんと評価されているのを見たときにやりがいを感じています。

学生へのメッセージ

ドットラインでは「まずはやってみる」ことが尊重されています。挑戦したことが評価される環境なので、私も人事評価に関わる仕事は未経験でしたが、日々新しいことにも臆せず挑戦することができています。人事評価制度やキャリアアップ制度などの仕組みも構築されており、新卒として入社後半年で課長に昇格した社員も活躍しています。

医療・福祉の事業だけでなく、「地域の『困った』を『ありがとう』に変える」事業を今後も展開していきますので一緒に新しいことにチャレンジしていける方をお待ちしています!



石井 花織(いしい・かおり) 人事部 組織開発課 組織制度チーム 所属 2021年 法政経学部 法政経学科 政治学・政策学コース 卒業

EVENT

JIGEキックオフシンポジウムを開催

千葉大学は文部科学省「大学の世界展開力強化事業～米国等との大学間交流形成支援～」に関西大学・東北大学と共同で申請、2023年9月22日付で採択され、3大学で連携したJIGE (Japan Hub for Innovative Global Education)が同月に発足しました。2024年1月24日から26日の3日間にわたりJIGEキックオフシンポジウムを開催し、本学墨田サテライトキャンパスで行われたワークショップでは、国際化の取り組みをどのように強化できるかについて、活発な意見交換がなされました。



墨田サテライトキャンパスでの様子

EVENT

ゲームや工作でSDGsを学ぶ「こどもエコまつり」を開催

千葉大学環境ISO学生委員会と株式会社京葉銀行は、2017年度より協同でecoプロジェクトを実施しており、SDGs達成に向けた取り組みを行っています。その一環として、2023年11月と2024年3月に、地域の子どもたちを対象に、SDGsを学ぶ「こどもエコまつり」を開催しました。参加した子どもたちは、学生が製作したカードゲームや、牛乳パックやペットボトルなど身近なものを生かした工作体験を通して、SDGsの理解を深めエコ意識を育みましました。



SDGsカードゲームで遊ぶ様子



執務中の石井さん

株式会社ドットライン <https://www.dotline-jp.com/>



2014年から千葉県を中心に医療・福祉事業を展開しており、千葉県内事業所数No.1を獲得(東京商工リサーチ調べ)。「幸せの循環創造」をミッションに掲げ、仕事を通じて「幸せが循環している社会」を作る事を使命としている。2023年8月には第2創業期を迎え、コーポレートロゴをはじめとしたヴィジュアル・アイデンティティをリニューアルした。

創業年:2011年11月 従業員数:1,274名(2024年1月現在)



CHIBA TOMO NEWS

千葉大学マスコット「ニシ」、「イノ」、「マツ」、「スミ」より
ニュースをお届けします!

vol.13

CHIBA TOMOものがたり 17時限



CHIBA TOMOは2023年度も たくさんの人に出会えました!

この一年もCHIBA TOMOはたくさんのイベントに参加してきました。
そこで出会えたみなさんとの思い出を振り返ります!

大学祭の日には
地域の方々
ともたちも交流!



防災まち歩きイベントでは
有名キャラとも共演!



秋には学生や先生にも
誕生日を祝ってもらったよ!



とても広い西千葉キャンパスには、桜が見られるスポットがたくさんあるよ!
亥鼻キャンパスからは、お城と桜と一緒に写真を撮るととってもきれいなんだ!
松戸キャンパスには庭園と桜が見えるよ!
今年の春は全部のキャンパスをお散歩してみたいなあ。

CHIBA TOMOとは... 千葉大学のキャンパスをかたどったマスコット。うさぎの「ニシ」、かもめの「イノ」、さいの「マツ」に、2023年、バクの「スミ」が仲間入りしました。

スミってどんな子?

なまえ スミ 誕生日 4月18日
身長 134cm 体重 50kg

墨田サテライトキャンパス 空を見る研究室 所属。
大学にはまだ慣れてなく、ニシ、イノ、マツにいろいろ聞きながら勉強中。いつもいい夢を見ている想像力豊かな性格。好奇心旺盛。

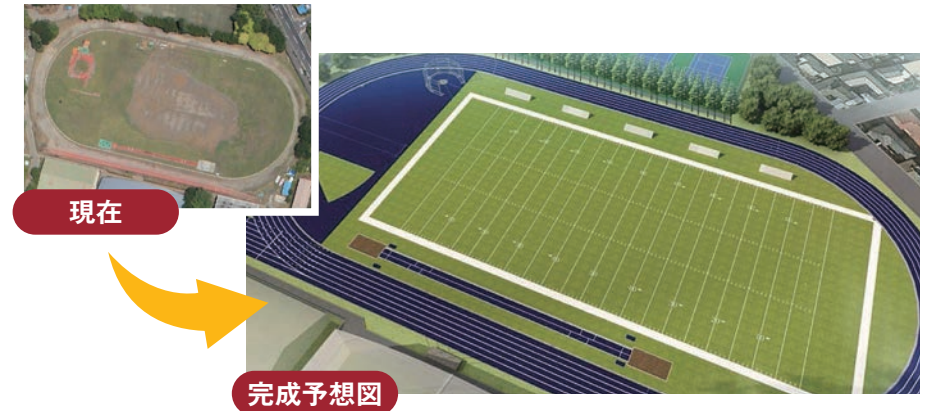


千葉大学基金はチャレンジを支え、
人を育てる基金です



千葉大学創立75周年記念事業募金へのご支援のお願い

千葉大学は2024年に創立75周年を迎えるにあたり、記念事業として陸上グラウンドを整備いたします。最適なトラックでインフィールドを新たに整備することで学生に快適なスポーツ環境を提供し、地域住民の皆さまには災害時においても安心して過ごせる環境を整備いたします。



中谷 晴昭
国立大学法人千葉大学理事
(創立周年記念事業担当)

新型コロナウイルス感染症の世界的流行から約4年が経過し、学生の元気な声とともにキャンパスに活気が戻ってきました。また、本学では「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」で全員留学を掲げておりますが、お陰様で学生の海外留学が本格的に再開し、コロナ禍以前の活気あるキャンパスに戻りつつあります。

このようななか、本学では2024年に創立75周年を迎え、記念事業として陸上グラウンド記念募金を本格的に開始いたします。国からの交付金に頼らず大学自らが一大プロジェクトとして教職員・卒業生・学生らが一体となって募金活動を行います。

学生が豊かに伸び伸びと学部や学年を超えて仲間たちとの交流を推進できるよう、快適な陸上グラウンドに向けて整備いたします。皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

竣工予定は
2024年9月末です。



ご寄付は
こちらから



陸上グラウンド
を使用している
課外活動団体
のご挨拶(動画)

陸上グラウンド記念募金へのご支援に感謝して

謝意	個人	法人
陸上グラウンドオープニングイベントにご招待	100万円~	500万円~
陸上グラウンドに法人様のお名前を掲示		300万円~
千葉大学創立75周年記念誌 (2024年秋頃発刊予定)を贈呈	10万円~	30万円~
メイドイン千葉大学の生産品を贈呈	5万円~	



メイドイン千葉大学の生産品3点セット。この他に、寄付金額に応じて感謝状の贈呈や銘板の掲示をさせていただきます。

税制上の優遇措置 【個人】 寄付金が2,000円を超える場合は、確定申告を行うことにより税制上の優遇措置を受けることができます。
【法人】 全額損金算入が可能です。

お問い合わせ先 千葉大学基金室

メール kikin@office.chiba-u.jp

043-290-2014

ホームページ https://kikin.chiba-u.ac.jp

千葉大学基金

ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

住所 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

